

<局地的に細かく見ながら、全体の概況も考えられる！>

地図を拡大して局地予報のシナリオを立てる時、概況を考える段になって「あれ？そもそもどんな気圧配置だっけ？」なんて、忘れっぽい人に便利。

①「表示 (D)」から、【降水 map】を選択します。すると…

The image shows two screenshots of the APLA 2006 software interface. The top screenshot shows the '表示 (D)' menu open, with a red box highlighting the '【降水map】を表示' option. A yellow arrow points to this option, and a text box explains that clicking '表示 (D)' opens a selection menu where '【降水map】を表示' should be chosen. The bottom screenshot shows the software displaying a precipitation map (降水map) over a geographical area, with a yellow arrow pointing to the map and a text box stating that such a map can be displayed in parallel. The interface includes a menu bar, a toolbar, a main map area, and a data panel on the right showing 'Observation Data of Amedas' and 'GPV Precipitation and Pressure'.

表示 (D) をクリックすると、ペロっと選択肢が出てきます。この中の「【降水map】を表示」を選択する

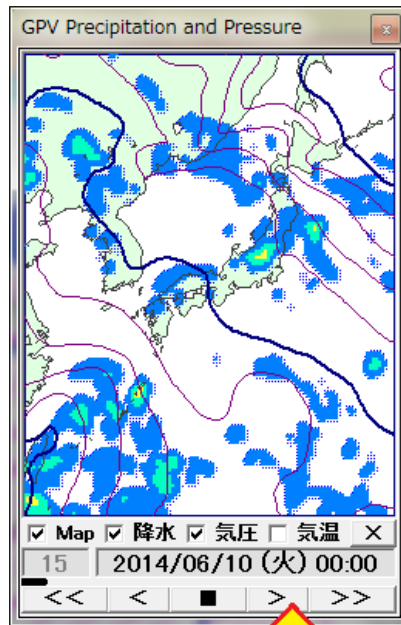
↓このように、小さいマップが出てきます。

なんと、このようなmapが平行表示できます。

②小さいマップは、拡大して表示させている天気図と平行に見られます。また、拡大している天気図の時間を動かせば、小さいマップの方の時間も同時に進みます。局地的な動向を見ながらも、全体像が分かるので概況が書きやすいです。

また、小さいマップでも、表示させたい要素（Map（輪郭がハッキリするか、しないか）、降水、等圧線、500hPa の等温線）を選択できます。

例えば、寒冷渦などがある時は、どのタイミングで寒気入るかな？その時、下層の局地的な状態はどうだろう？なんてことが、合わせて分かります。



表示させたい項目
Map、降水、気圧、気温(500hPa)
にチェックを入れます。

下にある「>」「>>」ボタンで
ひとコマずつ、もしくはアニメーションで
動かすことができます